

『イエスは来て真ん中に立ち』井上隆晶牧師
エゼキエル書 37 章 11～14 節、ヨハネ福音書 20 章 19～29 節

①【あなたがたに平和があるように＝平安の秘訣】

イエス様が復活した日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけ、身を隠していました。イエス様の次は自分たちが殺されると思っていたからです。そんな恐れと不安でいっぱいだった彼らの家の中にイエス様は入って来られ、真ん中に立ち「あなたがたに平和があるように」と言われました。（19 節）そして彼らに手と脇腹の傷跡を見せ、自分がイエス本人であることを示すと、弟子たちは喜びにあふれました。イエス様は再び「あなたがたに平和があるように」と言われました。（21 節）この「あなたがたに平和があるように」という言葉は、ユダヤ教で「シャローム」といい、キリスト教の挨拶に受け継がれて礼拝の中で何度も用いられる言葉です。正教会では「衆人に平安」と司祭がいうと、会衆は「汝の霊にも」と応えます。英語では「peace be with you!」です。

「平安」これは私たちが一番欲しいものだと思います。皆さんは何をすると平安になりますか？おいしい物を食べた時、美しい景色を見た時、家族といる時ですか？でも何か落ち着かず、それはすぐに消えて行ってしまいます。私は教会で祈禱をしている時に、一番「平安」を感じます。神の前に立つと、恐れではなく、不思議と「平安」が来るのです。恐れが消えるのです。神がとても近くに感じると「平安」を感じるのです。それは心の中にキリストと共に聖霊が入って来られるからだと思います。神父・神子・聖霊だけが完全な平安の中におられる方です。キリストの平和は、この世の平和とは違います。イエス様は死ぬ前に「私は、平和をあなたがたに残し、私の平和を与える。私はこれを世が与えるように与えるのではない。」（ヨハネ 14：27）と言われました。この世の平和は、お金がたくさんあることから来る安心、健康から来る安心、災害や戦争や争いが無いことから来る安心です。全部横から来る平和であり、その平和は一瞬の内にひっくり返されます。元旦の能登半島の地震がそうでした。この世には完全な平和はありません。しかしキリストが下さる平和は上から来るものであり、聖霊による支配です。あなたがこれによって平安を得ようとするものがあなたの真ん中に立っているのです。あなたの真ん中に何が立っていますか？平安の秘訣は、心の真ん中にキリストを立てることです。キリストがいれば必ず平安になります。

②【聖霊を受けることは、キリストの仕事を引き継ぐため】

イエス様はこの後「父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」（21 節）といわれ、弟子たちに息を吹きかけ「聖霊を受けなさい。だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。誰の罪でもあなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」（22～23 節）と言われました。これはヨハ

ネ福音書のペンテコステ（聖霊降臨）と言われている記事です。ここで弟子たちはキリストによって聖霊を吹き入れられ、キリストの体（教会共同体）に創り変えられたのです。油を注がれた者はキリストと呼ばれます。私たちも聖霊という油を注がれたので小さなキリストになったのです。それはイエス様の業を引き継ぐ者としてこの世に派遣されるためです。その仕事の一つが人の罪を解くことです。「だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。誰の罪でもあなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る」と言われています。ここでは「あなたがたが赦せば、その人の罪は赦される」と言われ、人が赦されるかどうかはあなた次第だと言われているのです。何をしているのか分からない者が多いのです。分かっている者が執りなすのです。ステファノと同じように自分を迫害する者のために祈るのです。教会は、神と多くの民を結ぶ新しい祭司、新しいイスラエルとなったのです。ここでは弟子たちはまだ未熟であり、恐れもあります。十分な信仰も知識ありません。それでも教会はスタートさせられました。弱くても恐れずはいけません。キリストが私たちを選んだことを忘れないようにしましょう。

③【考えるのではなくキリストに触れることで分かる】

弟子の一人であるトマスは、一緒にいなかったのでイエス様に会うことができませんでした。仲間の弟子たちが「私たちは主を見た」（25 節）といった時、彼は「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手を脇腹に入れてみなければ、私は決して信じない」（25 節）と言い張りしました。トマスにはディディモ（双子）というあだ名がついています。それは彼の心の中に「信じる自分」と「信じられない自分」の二人がいるからです。これは私たちも同じです。いつも 100%信じている人は誰もいません。ですからトマスとはあなたです。信仰は日々、海の波のように変化します。

八日後（日曜日のこと）、弟子たちはまた家の中におり、今度はトマスも共にいました。すると再びイエス様は姿を現し、トマスに「あなたの指をここに当てて、私の手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、私の脇腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい」（ヨハネ 20：27）と言われました。これはトマスが言った言葉です。イエス様はトマスの横にいて、姿が見えなくてもその言葉を聞いていたということです。今も横にいる主、聞いておられる主が見えるためにはどうしたら良いでしょうか。それはイエス様は日曜日ごとに姿を現すので、その日に教会共同体と共にいることが大事なのです。

トマスはすぐに「私の主、私の神よ」（同 20：28）と信仰告白をしました。彼が本当に傷口に指を当て、脇腹に手を入れたかどうか分かりません。ただ彼はキリストに触れる必要があったということです。一方マグダラのマリアはその反対で「わたしに触ってはいけない。」（ヨハネ 20：17；口語訳）と言われました。二人の性格の違いが分かりますね。マリアは甘えすぎ、トマスは甘えなさすぎです。バランスが必要です。触れるとは近づくこと、甘える事です。キリストを頭で考えてはだめです。キリストに触れる事です。子どもを見て下さい。頭で考えませ

ん。触れて覚えます。そして触れて愛を感じるのです。

●大宮保育園でイースターのお話をしました。私：「卵の中には何が入っているか知ってる？」子供たち：「ラムネ！」私：「それはお菓子の卵ですね。そうじゃなくて、本物の卵の中にはひよこが入っているんだ。ひよこが硬い殻を破って出て来るように、イエス様はお墓からよみがえったんだよ。でも幽霊じゃあないよ。手も足もあり、触ることも出来るし、ご飯も食べるんだ。そのイエス様の復活をお祝いするのがイースターなんだよ。みんな、命って何だか知ってる？命って生き物を動かす神様から出た力なんだよ。人間も動物も植物もお魚や鳥もみんな、神様から命をもらって生きているんだ。生き生きとした命っていいよね。体はその命を入れる入れ物なんだ。入れ物は病気になったり怪我をしたりして壊れる時があるんだ。そんな時は、お医者さんに行つてその入れ物を治してもらうんだ。でもお医者さんは命を作ることはできないんだ。それは神様だけしか出来ないことなんだ。神様はご自分の命を私たちの中に入れてくれたんだけど、だんだん大人になると悪い事を考えたり、人の物を盗んだり、人を傷つけたりすると、神様の命は出て行ってしまうんだ。すると人間の体は死んでしまうんだよ。でも、イエス様は、神様の命がいつまでも入る死なない体を造ってくれたんだ。それが復活なんだ。神様と共に歩んだ人には、この死なない体と神様の命がもらえるんだよ。そしていつまでも生き続ける事ができるんだ。みんなはそんな死なない命が欲しいですか？欲しい人は手を上げて下さい。」子供：「は～い！」

キリスト教が始まったのは人間の力ではありません。キリストが始めたのです。弟子たちは恐れで何もできませんでした。恐れは人を硬直させ、屈ませます。そこに命が入って来たのです。命の特徴は動き出すという事です。命に触れられた弟子たちは、恐れが消え、力が湧き、立ち上がりました。キリストに出会った人は必ず動き出すのです。ゼロでも、マイナスでも終わらないのです。信仰が生まれ、命にあふれ、何かが始まるのです。彼は創造者であり、無から有を生み出す方だからです。人間を終わらせないために、あの方は人間の終わりの所まで降ってきてくださいました。だから「モウダメだ」という所にキリストは必ずおられます。この教会がそうでした。誰もいなくても、キリストとの交わりを始めたら動き出して、人が集まり、動き出しました。だから、恐れと絶望の中にいる人はトマスのようにキリストに手を伸ばし触れなさい。そうしたらあなたの中に何かが始まります。どうか命を与えるキリストとの交わりを大切に、それを続けて下さいますように。栄光が命の創始者であるキリストにありますように。